

2020-21年度

ガバナー公式訪問

クラブ協議会

と き 令和2年8月12日(水)
ところ ホテルヘリテイジ飯能sta.

飯能ロータリークラブ 日高ロータリークラブ

《パネルディスカッション》

司会：小川晃男パスト会長（飯能）★

パネリスト：

- クラブ戦略計画委員会
吉田武明委員長（飯能）
- 会員増強委員会
大野泰規委員長（飯能）
- 会員増強・退会防止・長期計画委員会
清水佳代子委員長（日高）
- クラブ管理運営委員会
鈴木敏蔵委員長（日高）

司会★地区から頂いた7つのテーマを全部議論する時間はございませんので私共で2つに絞りました。1つが「5年後のクラブについてのビジョン～クラブを存続発展させるには」、もう1つが「クラブの活性化をどのようにするか」です。よろしくご議論を頂きたいと思えます。

■吉田(武)委員長 10年前に大附会長の下で幹事を務めました。会長の女房役として、痒いところに手を届かせるような立場でやらせて頂いたつもりですが、その時にRCの良い所とマイナス面を何となく感じました。と言いますのは、米国発祥の組織ですから、効率的で運営し易い方法が1年限りのローテーション。しかしですね、いろんな重要な運営を見ますと、それでいいのかなという部分も結構あったような気がするんですね。その後、私が会長を務めた時にはベトナム人奨学生のマイ君の面倒をみておりました、そのご縁で、ベトナムとの人的交流がなされつつありました。そこで、当時国際奉仕の藤原委員長から「吉田会長、ベトナムの非常に困っている学校に目を向けて、出来れば学校建設、あるいは現地の教育関係者、市長等の意見を集約して何か奉仕出来ないでしょうか」との話がありマイ君を先導役にベトナムに行ってみる事にしたのです。ハノイから車で2時間程の立派な高校にも行きましたが、翌日は雨降りの中、ラオス国境近くの山岳地帯に連れて行かれました。道路は泥道でした。学校を建設してもらいたいという要望をそこで聞いたわけですが、1年目はそれで帰国しました。次年度の会長といろいろやろうかなと思っていたのですが、やはり1年刻みなものですから、その時の会長の運営方針や予算の問題、個人差、温度差があるんですね。ですので、やはり長期計画か何かがあればなと思っていた矢先に田辺会長から「戦略委員長」の話を受けたものですから、「それは何ですか」と聞きました。「理想的なクラブ運営を進めるための基本計画を立案する」という事で、私の方で長

期計画をまず作り、1年毎のぶつ切りの事業を止める、そういう何かを作って欲しいと言われたのです。そこで、長期計画に基づいたビジョンをもって運営する方法を考えましょうという事になりました。中里(昌)パストガバナー補佐、大木パスト会長が私を支援するからというので、若い私が委員長になってしまったわけです。田辺会長の意向を踏まえながらやっていこうと思っています。まず我々は6つの事業パターンを作りました。「長期計画に基づいたビジョンをもって運営する」「親睦と奉仕の理念に基づいて奉仕活動を行う」「会員増強が出来るクラブ」これは田辺会長の意向があるのです。お蔭様で大野(泰)委員長が8名の増強をしておりますが、田辺会長は「10名やれ」という事ですから、これはクラブ全員でやろうという話になっています。「次のリーダーを育てる」これも田辺会長が、「とにかくガバナーエレクトを探せ」と言うものですから委員3人でいろいろやっております。今度、人間の水村ガバナーが誕生します。地区幹事は忽滑谷さんです。第3グループは10クラブ。そこから5名の副幹事を選ぶという事で地区からは「飯能から1名出さない」という指示が出ています。ですから今、田辺会長を中心に当委員会は皆さんの知恵を借りながら選考しています。併せて会長エレクトも探して欲しいというものもあります。壁に当たっていますが何とか方法を考えて名前を挙げたいなと思っております。「ロータリアンの質を高める」高潔なロータリアンをつくるため切磋琢磨、自己研鑽を、という考えをもっております。最後に「ロータリアンたる心構えを自覚せよというクラブの空気をつくる」例会も会議も出来ない時世ですから、中里(昌)さんや大木さんには電話だけでまとまりがないのですが、「クラブの活性化をどのようにするか」について戦略委員会で考え、まとめたものが以上の状況であります。

■大野(泰)委員長 「5年後のクラブ」について考えました。結論から言うと、田辺会長から言われている、「若いメンバーをとにかく集める」というところになるのかなと思っています。これまでのRC、90歳100歳になっても仲間のいるRCは素晴らしいなと個人的には思っているのですが、長期的に考えるとやはり若いメンバーを入れて活性化していかないと、というところで田辺会長からは「40代30代のメンバーを勧誘しなさい」と言われています。逆に、この狭い地域、コロナで行動範囲が狭まり、活動範囲が小さくなっている世の中で、この地域に根差した素晴らしい経営者の方々と一緒にやれるというところは非常に時代に合ってきているのかなとい

うふうには感じてはいます。その中で、若い人達も一緒にやっていく事が必要なんじゃないかなと思います。若い方々は非常にドライですからこの素晴らしい会をどう若い方にも伝えていくかという、その伝え方の工夫も必要だと思いますし、いろんな活動を目に見える形で伝えていく事が必要だと思います。会自体は素晴らしいと思いますので、それをしっかりと伝えて、若いメンバーをさらに入りたいなと思っています。「99%リーダーで決まる」と昔言われましたが正に田辺会長の「若い方を入れろ」のひと言は非常にプレッシャーに感じています。今年に入ってから「大野が行くとRCに入れられちゃうから逃げろ」みたいなところがあってですね、非常にやりづらい時期もありました。それに負けずにやっているのですがなかなか成果に結びつかず非常に危惧しております。まだスタートしたばかりなので頑張っていきたいと思っています。

■清水委員長 会長経験者全員が委員となって担当しています。今年度、長谷川会長は増強2名を掲げております。新型コロナの感染で、会員の会社様も影響を受けながらも頑張っている、また繋がりを強くもっているという強みを生かし、そこを他の皆様にも「RCのメンバーは頑張っているな」というところを見て頂いて、価値観を共有出来るような方達を増強していきたい。ただ前半はなかなか足を踏み出せない状況で、今のうちに皆で情報を共有しながら年度後半に向けて頑張っていきたいと思っています。その中で、親クラブの飯能RCの田辺会長が日高にいらっしゃった時、「会員増強に関して、情報を共有していきましょう」と、大変心強いお言葉を頂きまして、おんぶに抱っこのような形にはなっているのですが、会員全員で年度後半に増強を進めて参りたいと思っています。

■鈴木委員長 当クラブは会員数がだいぶ減って参りまして、これだけはやっていかななくてはいけないというのが存続と活性化です。現在会員数は16名。他に日高市長を名誉会員に迎えております。30年以上の在籍者1人、20年以上が2人、10年以上4人、10年以下9名。現在では経験年数5、6年の会員に会長職を引き受けて頂く事も多くなっています。このような状況の中でこそ、RCの基本的な考え方や創立当時の成り立ち、伝統等をよく理解してもらい、全員で共有していく事が大切なのかなと考えております。クラブの存続、活性化を考えるに当たり温故知新という言葉が思い浮かびました。日高RCは創立38年目。クラブを築き上げてこられた諸先輩方の考え方を全員で掘り起こし学ぶ事から、将来の展望も見えてくるのではないかな。そのような感じがしております。クラブは生き物です。残すべきものはしっかりと残す。時代に合わなくなったものは全員で知恵を出し合いながら改革していけばよい。そんな考えをもっております。



過去を振り返りますと、日高クラブの理想的会員数は30名程ではないかと思えます。良い仲間を増やしていくには、私達が良い仲間、良いクラブであり続ける事が大切です。とにかく会員増強が最重要課題であり、全会員が心一つにしてこれからも頑張っ参ります。親クラブの飯能RC様にもいろんな面でお知恵を拝借させて頂きご協力も頂きたいと考えております。どうぞよろしくお願ひ致します。

■吉田(武)委員長 ベトナムの優良高校に行つた際、「PCの教室を見てくれ」というので行きましたら、真空管を使ったようなPCで、もう動かないんですね。「何とかこの辺のご協力を頂けないか」と言われたものですから、帰つて来て会員の方々に協力して欲しいと頼みました。吉田(健)パストガバナー補佐等にも相談しました。現地の公安部長からの助言を頂き、とりあえず100万円分のPCを高校に贈りました。確認のため再訪したところ、生徒達が喜んで使っており、良かったなと思ひました。藤原委員長は何とか5年続けたいとの事でした。当時、予算、予備費が無くなってきており若干波風はあったのですが、5年間継続出来、ベトナムの人達に喜ばれながら一応終了したという事だけご報告します。

司会★RIの国際奉仕の補助金が貰えないかというお話も最初にあったようですが、ベトナムにRCが存在しないという事が一つのネックになったと聞いております。最終の年度には地区からの補助金が頂けたと思ひます。やはり継続する事の素晴らしさという事かなと思ひます。

先程RI会長のお話の中に“fellowship”と“vocational service”の2つの言葉が出てきました。要するに「親睦」です。すぐ、飲みに行く事ばかりが頭に浮かんでしまうのですが、本来の“fellowship”は「仲間意識」とかそういう事です。その“fellowship”と“vocational service”「職業奉仕」が本来のRCの核心だったと私は理解しています。最近のRCですと奉仕する事、国際奉仕の方にむしろ中心が行きつつあるというようなお話も耳に致しますが、個人的には「親睦」と「職業奉仕」がRCの中心であつて欲しいと願つております。ご清聴有難うございました。

◎相原ガバナー講評

改めて皆さんのRCに対する熱い思い、愛情というものを感しました。特に飯能の「クラブ戦略計画委員会」の設置です、明確に7つの目標を立てていらっしゃる、そしてそれを着々と実行されている事に敬意を表します。日高の皆さんは“ONE TEAM”となつて新しい方を中心にこれから歴史をつくっていくわけですが、その中でも温故知新を忘れずにやっていくとのお話でした。RCの115年という歴史の中で絶対に変わらないもの、小川さんがおっしゃつた“fellowship”と“vocational service”こちらを念頭に置きながら、ロータリアンの皆さんの益々のご多幸ご健勝、クラブのご発展を祈念致しまして、簡単ではございますが私の講評とさせていただきます。どうも有難うございました。

